

「津波防災サインのガイドライン」策定と活用』の企画（案）のご提案

提案の趣旨

3.11 東日本大震災以降、震災復興の推進とともに各自治体においても津波対策を強化する意識が高まり、各地において津波関連サインの設置が進められています。津波は迅速で的確な避難を行えば、被害を防ぐことが可能な災害です。そのためには日頃からの学習・啓発と津波来襲時の適切な避難誘導が非常に大切になります。その意味から各地で進められている津波防災サインの整備は重要なことと言えます。

しかし、現実には津波ピクトグラムをはじめとする津波関連サインの図記号及び使い方の整備はまだ十分とはいえません。現時点では「津波警告・注意」「津波避難場所」「津波避難ビル」に関する津波ピクトグラムが ISO 規格として制定されているにとどまっています。それらを利用しながら津波関連サインを配置・設置する試みは各自治体における独自の対応として進められており、すでに設置されている事例では各自治体ばらばらの標識がつけられています。このような状況は不特定多数の人々にせつかくの津波関連情報が正確に伝わらないばかりか、非常時には混乱をきたすことにもなりかねません。

そこで、現在の津波防災サインの不備な点を整備し、配置・設置のあり方を含めた使い方をわかりやすく紹介するガイドラインを国の方針として、早急に策定する必要があると考えます。

津波防災サインのガイドライン化によって、全国的に統一された標識の設置がすすみ、誰に対しても、いつでもどこにいても、適切な防災・減災機能が発揮できます。

以上のような趣旨により、ここに『「津波防災サインのガイドライン」策定と活用』の企画（案）をご提案いたします。また参考として、現在私たちが考えている「津波防災サインのガイドライン」（素案）を添付いたします。是非、参照のうえご検討いただきますようお願い申し上げます。

平成 24 年 5 月 15 日

公益社団法人日本サインデザイン協会 会長 横田保生
特定非営利活動法人防災デザイン研究会

「津波防災サインのガイドライン」策定と活用』の企画書（案）

1 目的

1) 津波は迅速で的確な避難を行えば、被害を防ぐことが可能な災害である。津波被害を防ぐには日頃からの学習・啓発、避難場所・避難ビルへの誘導、注意・警告・行動喚起のための津波防災サインシステムが、日本全国どこでも誰でもがわかりやすい、統一された形で整備されることが必要である。

2) 本ガイドラインは津波災害に対する日常時における備えと、緊急時の避難に関する行動を安全かつ迅速に行うため、自治体等の津波防災サイン整備主体において、正確な津波防災サインの実施が行われることを目的として策定するものである。

2 検討組織

1) 中央防災会議及び防災関係専門家、サイン関係専門家により「津波防災サインガイドライン」検討委員会を設け、そこにおいて検討策定する。

2) 原案作成に当たっては図記号、サイン、津波防災に経験のあるコンサルタントに委託する。

3 検討内容

1) 未整備津波防災図記号の考案

2) 津波防災関連図記号の整理と機能の明確化

3) 津波防災図記号活用に関わる展開案の考案

4) 津波防災図記号設置に関する基準の設定

5) 津波防災以外の防災関連図記号との使い分けの明確化

6) 「津波防災サインガイドライン」の作成

4 ガイドラインの活用

1) 「津波防災サインガイドライン」活用に関して、関係省庁及び全国自治体への配布と説明

※参考資料：「津波防災サインガイドライン」（素案）参照